

令和元年度 第3回高知支部評議会 議事録

開催日時 令和元年 9月19日(木) 15時00分～17:00分

開催場所 高知会館4階「やまもも」

出席評議員 被保険者代表・・・折田晃一 島内 勉
事業主代表・・・古谷純代 嘉数 実 亀井秀彦
学識経験者・・・遠山 仁 西森やよい 中川香代

議題

1. 「保険者機能を発揮するための事業」について
その他

議事概要

◆議題1 「保険者機能を発揮するための事業」について

(保健事業の推進について)

- 【評議員】 保健指導の案内が来て、私の所属する会社でも数人が指導を受けたが、指導を受けて良かったという声がないと広がらない。
- 【評議員】 健康経営の考え方は間違いなく浸透してきている。官民間わず協働できるところと連携して健康経営を推し進めるべき。
- 【評議員】 健診結果を従業員に渡す時に、事業主側から一声かけるだけ変わってくる。(前年の指導を受けたかの確認や健康に対する注意点など)
- 【評議員】 インセンティブ制度の浸透率が低いのであれば、保険料率が下がる可能性があることを、事業主や加入者にもっと伝えるべき。
- 【評議員】 健診当日に結果を本人に伝えて、当日に指導を受けることができる流れをより推進できればよい。
- 【事務局】 生活習慣病予防健診を受診できる健診機関16機関のうち、8機

関が委託事業として実施している状況ですが、さらに事業を推進していきたい

【評議員】 保健指導の成功事例を広報の訴求材料として活用していくべき。

【評議員】 健診の受診が法定のルールである事をもっと周知すべき。

(ジェネリック医薬品の使用促進について)

【評議員】 病院の問診票記入時にジェネリック医薬品処方の希望の有無をとれないか。

【評議員】 年齢や性別問わず多くの人が集まるイオンモールなどの商業施設で、大々的にジェネリック医薬品の安全性などを訴えるイベントや、ジェネリック医薬品に対する研修や講演を開催できないか。

【評議員】 自由選択を主張する人もいるが、安全性やインセンティブ制度、将来の医療費など、「なぜジェネリック医薬品なのか」をキチンと伝えるべき。

【事務局】 ジェネリック医薬品の軽減額通知に加えて、研修会や広報誌などを活用して周知広報に力を入れていく。

【評議員】 切り替えの前後での、「個人の感想」等を広報材料にできないか。

(効果的な広報事業について)

【評議員】 会員の属性の分析と、それに合った提供情報の選択が必要ではないか。

また、タイトルも、制度の説明ではなくて、その制度の対象者への呼びかけの方が伝わるのではないか。

【評議員】 健康アプリの提供など、単に読むだけでない仕組みは作れないか。

【評議員】 誰かが調理した料理をチェックして健康度を判定するなど、身近で親近感もてる健康情報も面白いのではないか。

【評議員】 事業をいかに周知していくかが重要。新規適用事業所の研修会等で、通常の事務説明と抱き合わせでやれば効率的だと思う。

【事務局】 保健事業、ジェネリック医薬品の使用促進、効果的な広報について多くの意見をいただいたので、参考にして事業を推進していきたい。

○特記事項 傍聴人なし

次回開催は10月25日を予定